

亡き主君を思う家臣と蓮の花



田中七左衛門宛 狩野勇書状

たなかしちざえもんあて かのういきみしよじょう

(草津宿本陣蔵)

史跡草津宿本陣として現存する「田中七左衛門本陣」は、寛永 12 年 (1635) から明治 3 年 (1870) まで本陣職を勤めましたが、その長い歴史の中でも、最大級の事件として語り継がれてきたのが「佐土原藩主急死事件」です。今夏、この事件に関連する新たな史料が発見されました。

佐土原藩主急死事件とは、天保 10 年 (1839) 4 月 7 日、江戸への参勤途中、佐土原藩第 9 代藩主、島津忠徹 (ただゆき) が、七左衛門本陣に到着した日の夜に急死し、相続の問題から同本陣に 77 日間滞在したというものです。

佐土原藩一行は、相続問題が解決したのち、6 月 25 日の朝に江戸へ向けて出発しますが、9 月に入ってから、主君の身の回りの世話をしていた御側御用人の狩野勇から七左衛門に宛てた封書が届きました。その封書には、長期滞在時の礼状とともに「ある願い」が記された書状が入っていました。その「ある願い」とは、「以前、本陣の庭前で見た蓮の花がとても気に入ったので、

植え替えの時期が来たときに、蓮の根をわけてもらえないだろうか」というものです。狩野が見た蓮がどのような形で咲いていたのか、最終的に蓮の根が狩野の元へ届けられたのかなど、詳しいことは分かりませんが、亡き主君の忘れ形見として欲したものと思われま

す。また、長期滞在時の礼状には、細かい文字ですが狩野の直筆で、江戸到着後の自身の近況が書かれています。葬儀が無事に終わったこと、所用と体調不良により、長期滞在時のお礼が遅くなってしまったこと、来春に佐土原へ帰国することになるので、草津宿に立ち寄った際には、七左衛門本陣に一泊させて欲しいことなどが記されています。天保 11 年 (1840) の「大福帳」の 5 月 15 日の項目には、狩野勇を含む佐土原藩一行の名前が記されているので、この宿泊の時、狩野は七左衛門と亡き主君との思い出話に花を咲かせていたのかもしれませんが。

(令和 2 年 11 月・草津宿本陣 松本 真実)